

環境

詳細は、下記Webサイトをご覧ください。

- 環境
- ESGデータブック
- 廃棄物削減
- 化学品管理

基本的な考え方

JSRグループは、次に示すレスポンシブル・ケア(RC)の基本方針のもとに、あらゆる事業活動を推進しています。

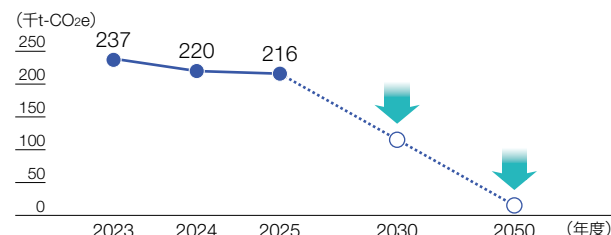
- ①事業活動に伴うリスクの把握と対策の実行により、社員・地域社会の安全確保と環境保全、持続可能な地球環境への貢献に努めます。
- ②事業活動に必要な法規制などの情報収集と確実な展開により、法令および自主規制の遵守に努めます。
- ③安全・健康・環境に配慮した製品開発とその情報提供により、製品安全に努めます。

特に事業活動に伴う環境負荷低減と化学物質の適正管理は、最重要課題の一つとして捉え、グループ全体で取り組んでいます。

気候変動対応

JSRグループではGHG排出量*の2050年度「ネットゼロ」達成を確実なものとするために、削減施策を継続的に見直しながら、中間目標として「2030年度に2023年度比42%削減」を設定して取り組んでいます。省エネ活動に加え、近年では購入電力の再エネ化やエネルギー転換にも取り組み、JSRグループ一体となって活動を推進しています。

GHG排出量



資源循環対応

JSRグループでは、社会が直面する海洋プラスチック問題への対応を含め、循環型社会の実現に貢献するため、廃棄物の3R(Reduce, Reuse, Recycle)をはじめ、原料調達・

製品製造の段階からライフサイクルを通じた資源の効率的な使用(サーキュラーエコノミー)を推進しています。

JSRおよび国内グループでは、各事業所の良好事例を活用することで、使用済プラスチックのリサイクル推進や廃棄物の外部最終埋立処分量削減に取り組んでいます。

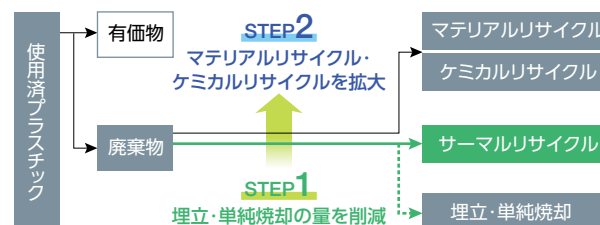
使用済プラスチックの2030年度リサイクル目標

- ① 100%リサイクル(熱回収含む)
- ② 60%リサイクル(熱回収含まず)

廃棄物の外部最終埋立処分量削減目標

- ① 廃棄物発生量の0.1%以下

活動状況の詳細は、サステナビリティレポート2026で公開します。



化学品管理

JSRグループでは、化学物質審査規制法などの国内法令はもとより、欧州REACH規則施行以降、世界各国で強化された化学物質管理規制について生産技術部(化学品管理)と研究所・事業部・現地法人の協業にて、漏れのない遵法対応を実施しています。また、製品安全確保の見地から、製品の設計段階から上市までの各段階ごとに規制・リスク評価の動向を踏まえたレビュー(下図)を実施し、製品中の有害化学品の計画的な削減と廃止に向けた自主的取り組みを推進しています。

実施段階	レビュー内容	担当部門
原料採用	遵法・危険有害性の確認	研究所・生産技術部
設計・開発	登録・代替可否検討、LCA評価	研究所・事業部・生産技術部
試作	遵法・PLP確認	研究所・事業部・生産技術部
製品化(量産)	量産スケールでの遵法確認	研究所・事業部・生産技術部
海外展開	販売国での遵法対応	事業部・生産技術部・現地法人

* Scope1+Scope2で算出されたもの